



第6章：環境

6.3 河畔緩衝帶

河畔緩衝帯が自然水生生態系を守る

- 土壌浸食の制御を助ける
- 洪水リスクの低減
- 根が自然のフィルターとして機能し、水を清潔に保つ
- 農薬の飛散（ドリフト）を水域に流入させない
- 野生動物の生息地を提供する
- 水生動物に有益な温度調節を助ける

河畔緩衝帯がなければ、小川や川の縁の土壌が浸食され、水域が崩壊する可能性がある。農作物に散布された農薬が水中に飛散し、水を汚染する可能性がある。



6.3 河畔緩衝帯

番号	専門要件	団体認証			個別認証
		小規模農場	大規模農場	団体責任者	小規模/大規模
6.3.1	農場は、 <u>水生生態系</u> に隣接する既存の河畔緩衝帯を維持する。	✓	✓		✓
6.3.2	生産者は、主な飲用源として頻繁に使用する川、湖、または他の水域から50m以内に農場がある場合に備えて、飲料水の保護のために次の追加の保護手段を維持する。 <ul style="list-style-type: none"> 少なくとも10m幅の河畔緩衝帯を維持、または設置する。 農薬や肥料を使用しない農薬散布禁止地帯を外側に追加で20m設置する（合計30m）。 追加で20mの地帯を設置し（水域から30～50m）、その区域では農薬が機械的な手段か手作業で、もしくは場所を絞り込んでのみ使用されるようにする。 	✓	✓		✓
番号	継続的改善要件				
6.3.3	水生生態系が、以下の河畔緩衝帯幅の指標を持つ河畔緩衝帯によって囲まれている。 <ul style="list-style-type: none"> 幅1～5mの水路の場合は、両側に沿って水平方向に幅5m。 面積が2ヘクタール未満の農場の場合は、緩衝帯の幅を両側2mに減らすことができる。 幅5～10mの水路の両側に沿って、および泉、湿地、その他の水域の周囲に沿って水平方向に幅8m。 幅10m以上の川の場合は、両側に沿って水平方向に幅15m。 完全に確立された河畔緩衝帯のほかに追加で農薬散布禁止区域を設置する必要はない。	✓	✓		✓

次のページに移動する前に、要件とその適用対象について読みましょう

6.3.1

農場は、水生生態系に隣接する既存の河畔緩衝帯を維持する。

河畔緩衝帯とは、水生生態系に隣接する永続的な植生区域のことです。これらは農作物や家畜が存在しない地域です。

水生生態系には、次のような流水と静水の水域が含まれます。

- 小川（季節的なものを含む）
- 河川
- 池とラグーン
- 湖沼
- 湿地

人工池または灌漑池および水処理用ラグーンは、絶滅危惧種の住処となるか、野生生物の生息地を提供するために開発されない限り、水生生態系ではありません。



6.3.1

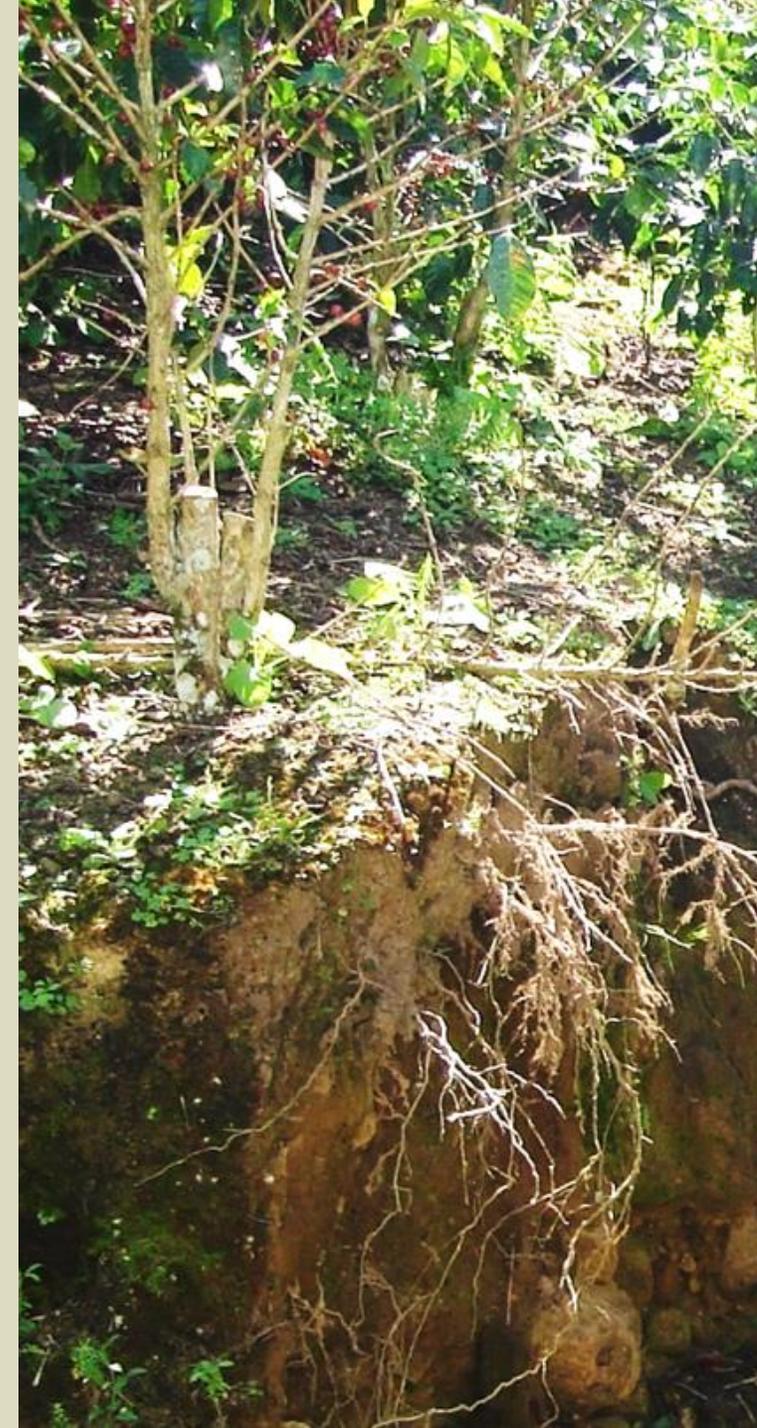
河畔緩衝帯は、原生または植栽植物でもよい。

水域や湿地の隣接または周辺にすでに自然植生がある場合は、そのような地域を農作物栽培地域に変換してはいけません。

自然植生に覆われた場所を維持してください。

河畔緩衝帯を設ける必要がある場合は、小川のほとりに植生を植えても良いでしょう。小川や川のすぐそばに作物を植えてはいけません。

同様に、川のすぐそばに植えられている牧草地に牛を放牧してはいけません。



ケーススタディ

例を通じて河畔緩衝帯を見てみましょう。
次の2つの水域を考えてみましょう。



1のうちほとんど乾燥し、雨季の3か月間のみ流れる小さな小川。



人工的に作られた灌漑池で、絶滅危惧種のカワウソが生息するようになった。

?

これらは水生生態系の例でしょうか？

次のページに進む前に答えを考えてください

ケーススタディー回答

答えは「はい」です。これらは水生生態系であり、河畔緩衝帯が必要です。

- **季節性の小川**：レインフォレスト・アライアンスの用語集によると、季節性の小川は、ほとんどの年で少なくとも2か月間連続して流れる場合、水生生態系と見なされます。
- **灌漑池**：この池は灌漑のために人工的に作られたものですが、絶滅危惧種が生息していました。そのため、現在ではその生息地は保護されるべき水生生態系であると考えられます。



飲料水の保護のための追加の保護策

ジェームスの大規模農場は、飲料水の主な水源として頻繁に使用する水域から50m近く離れた場所にあります。

そのため、水源を汚染から保護するために、彼は特に注意を払う必要があります。

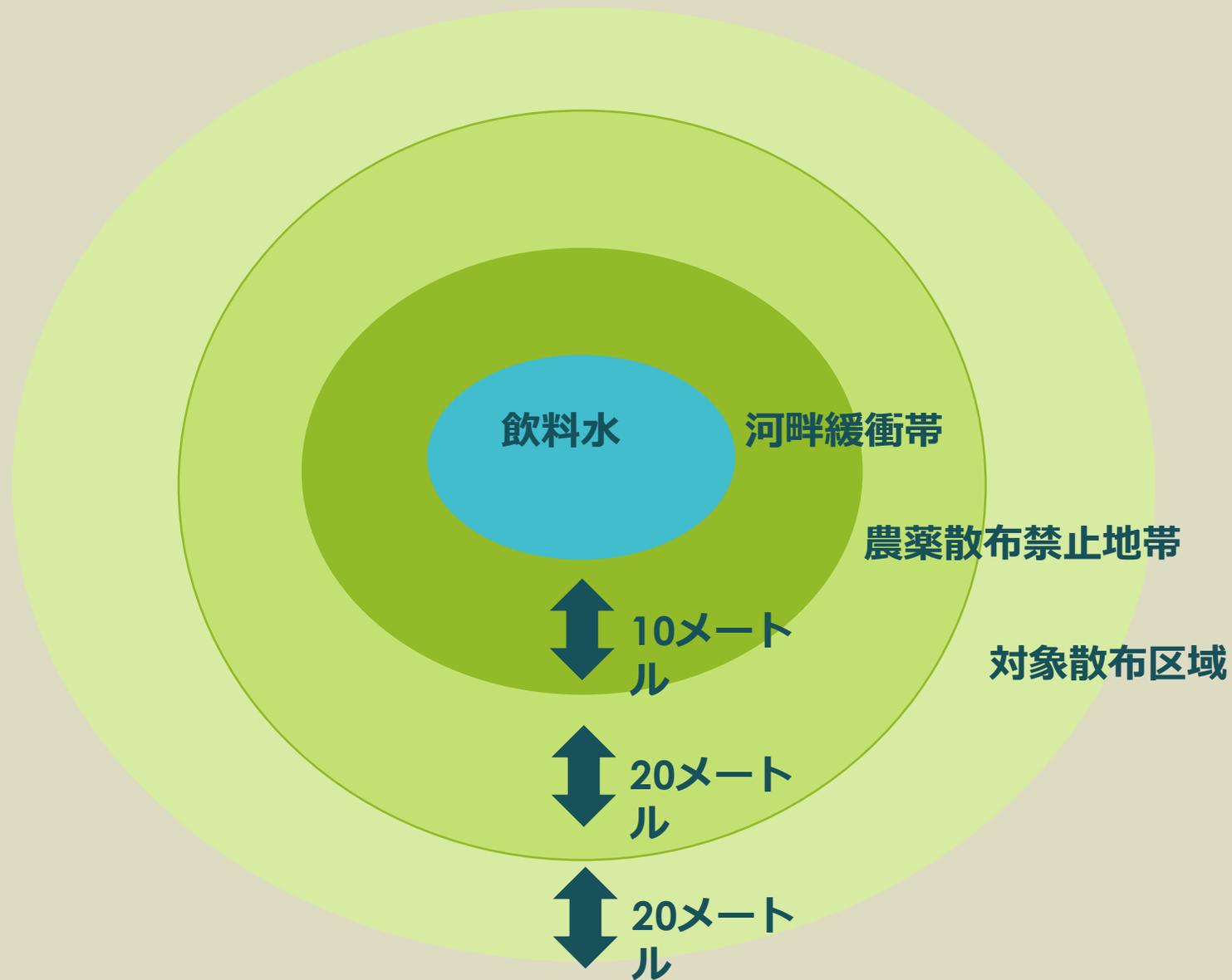
ジェームスは次の条件を満たさなければなりません。

- 水源に沿って幅少なくとも10メートルの河畔緩衝帯を維持または設置する。
- 農薬や肥料を使用しない農薬散布禁止地帯を外側に追加で**20m**設置する（合計30m）。
- 追加で**20メートル**の地帯（水域から30～50メートル）を設置する。この区域では、機械式、手作業による、または対象を絞った農薬散布のみを行う。



6.3.2

飲料水の保護のための追加の保護策

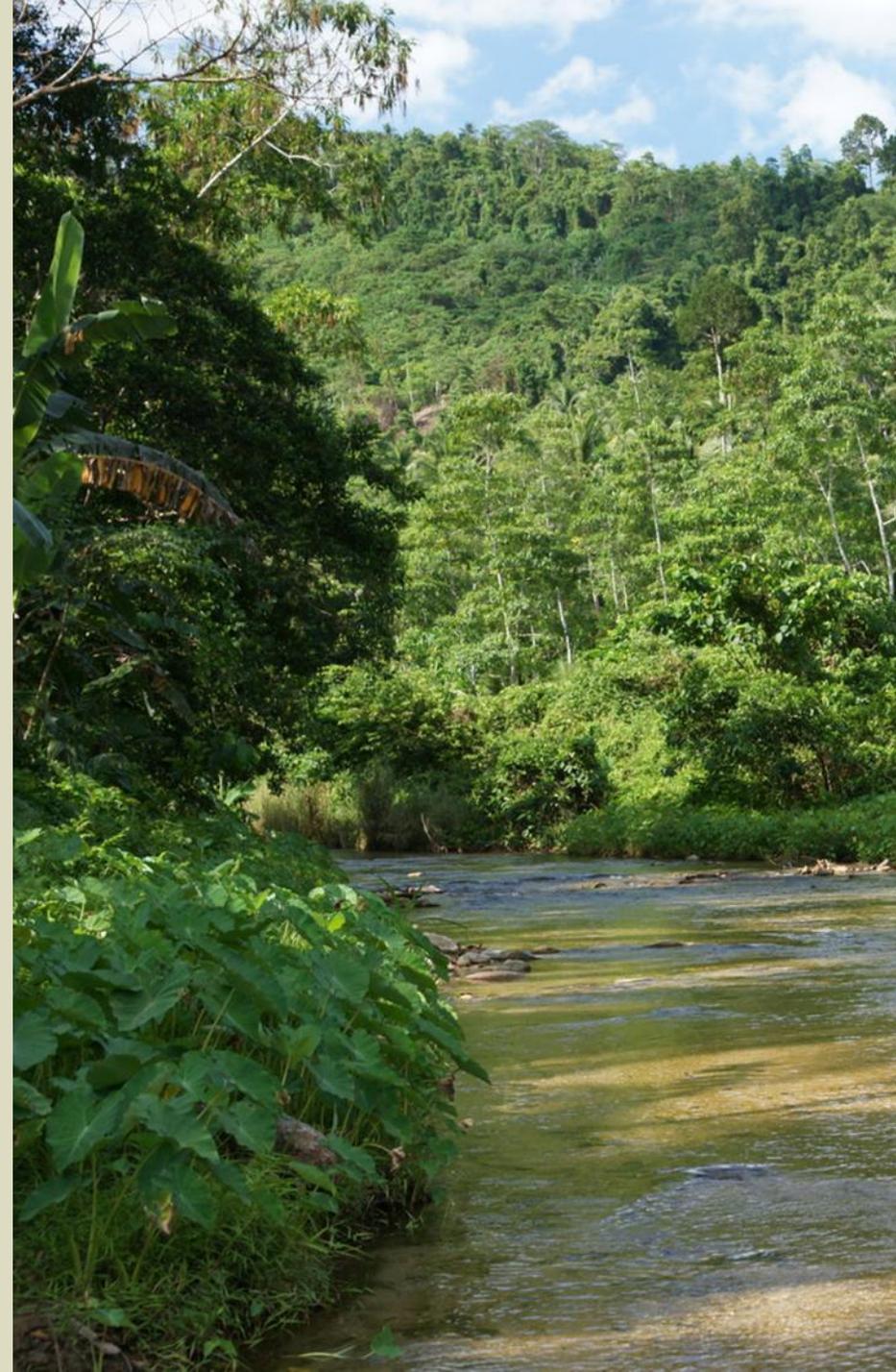


6.3.3

水生生態系は幅指標（パラメータ）を持つ 河畔緩衝帯によって囲まれている

生産者は、河畔緩衝帯を確立または回復するために、小川または河川の両側に自生する樹木や在来植物を積極的に植えます。

水域の近くに農作物を植えた場合は、河畔緩衝帯を確立するために引き抜く必要があります。



6.3.3

河畔緩衝帯幅指標（パラメータ）

- 小川の幅が 1 ~ 5 m の場合は、その河畔緩衝帯は少なくとも両側に沿って 5 m 幅でなければなりません。
- 2ヘクタール未満の農場の場合は、緩衝帯の幅を両側2メートルに減らすことができます。
- 川の幅が5~10メートルの場合は、河畔緩衝帯は少なくとも両岸に沿って幅8メートル必要です。
- 湧水、湿地、その他の静水水域の場合は、河畔緩衝帯の幅も少なくとも8メートル必要です。
- 川幅が10メートルを超える場合、河畔緩衝帯は少なくとも幅15メートル必要です。



河畔緩衝帯が完全に確立されたら、それに加えて農薬散布禁止地帯を設定する必要はありません。

ケーススタディ

事例を見て理解度をテストしましょう



ジェームスの大規模コーヒー農園は、幅8メートルの川沿いにあります。

ジェームスは河畔緩衝地帯を作るため、川のそばに植えていたコーヒーの木を取り除きました。彼は農作物と両側の川の端の間を10メートル空けていました。

?

ジェームズは河畔緩衝帯幅の指標を満たしていますか？

次のページに進む前に答えを考えてください

ケーススタディー回答

答えは「はい」です。ジェームスは幅指標の要件に従っています。

川幅は5~10メートルであるため、6.3.3によると必要な河畔緩衝帯の幅は8メートルです。

ジェームスは10メートルの河畔緩衝帯を設置しており、指標を満たしています。





**RAINFOREST
ALLIANCE**

rainforest-alliance.org